

水産養殖を

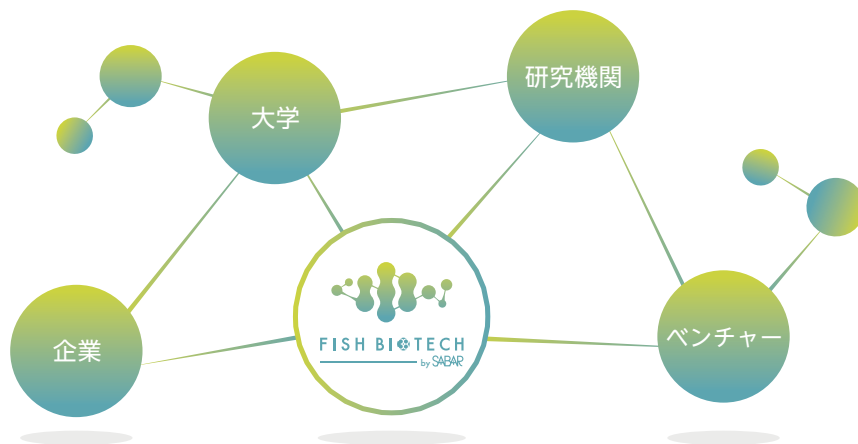
Happy
に!

aquaculture to HAPPY



FISH BIOTECH
— by SABAR
フィッシュ・バイオテック株式会社

私たちはR & D(研究開発機関)としてオープンイノベーションにより、他社のノウハウをまとめ、「**養殖**」という市場で**挑戦・商品化**をしてみたいです。



種苗、餌、育成技術をより安全に、
経済的に、シンプルに。

連携 共有

水産養殖を
もっとHAPPYに



MISSION

次世代の養殖の創造に向けて日本の
第一次産業を強化する為の「**研究
開発機関：R&D**」になります。

オープン・イノベーションによる事業開発
により、技術やナレッジを活用し事業展開
を加速します。
そして技術や製品・ナレッジを外部へ提供
し市場を拡大させリターンを得ることを可
能にします。

「なぜ民間の R & D が必要なのか」

通常
●自治体の開発センター
●大学等の研究機関
地域ブランドに固執し開発したもの
(技術含む)を、**オープンにしない**

生産者
結果として狭まれる

消費者
安価で良質な物が届かない

当社
●自社開発研究プラント
●国内外の関連研究機関
希望する養殖魚の研究も受託し、
開発したものは**オープンに販売**

生産者
良質な物を安易に生産可能

消費者
付加価値のある美味しい物が届く



VISION

安全で美味しいサバがいつまでも
食べられる未来のために。
持続可能な「サバの陸上養殖」の研究
と開発を行い、**発展と普及に
貢献するプラットフォームカン
パニー**であること。

フィッシュ・バイオテック株式会社は、
サバの陸上養殖に必要となる、種苗、エサ、
システムを総合的に提供できるサバ養殖の
プラットフォームカンパニーとして、海洋
資源を奪わず、安全でおいしくて、誰でも
参画できる、人と自然とサバに優しい漁業
に貢献しています。



SERVICE



ブランドサバ
Produce × Branding

種苗生産・種苗開発・完全養殖を可能に。
安全かつ美味しい高品質な養殖魚の種苗を開発し、
養殖事業者へ提供します。

海で採れる天然魚の減少、資源保護、食糧自給問題、漁業者の労働環境向上、
さまざまな問題を解決する養殖漁業。

弊社が手掛けたブランドサバ



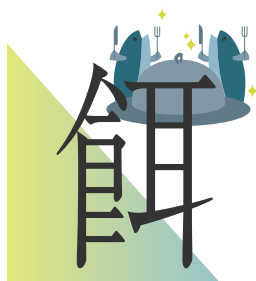
鳥取県とJ R西日本が共同でブランド化
お嬢サバ



梅エキス配合の飼料で育てた
こりゃ! うめえサバ



福井県小浜市の漁師らと協力
小浜よっぱらいサバ



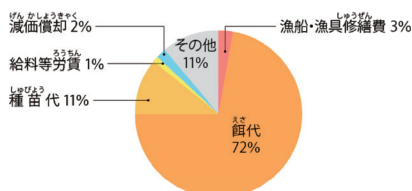
サステナブルな飼料原料として、天然由来ではなく、加工残渣などを
アップサイクルした飼料の開発に取り組んでいます。

高性能であり安価な飼料の開発を推進し、養殖事業者へ提供していく。

養殖における餌の課題

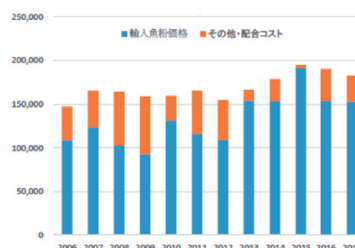
給餌養殖においては餌代が大半のコストを締めており、年々その主原料である魚粉が高騰している
ため、**水産飼料価格は上昇**している。しかもその「魚粉」は鰯（イワシ）などを粉にしており、
天然魚を養殖魚に食べさせることで養殖は成立している。

養殖業の支出割合



出典：農林水産省「漁業経営調査」（2016年）より抜粋

国内配合飼料価格



出典：水産庁平成29年度水産白書より抜粋



NTT docomo

ICTを活用した最新の養殖設備と育成モデルの開発、
養殖技術を養殖事業者へ提供します。

ICTを活用した最新の養殖設備と養殖技術を養殖事業者へ提供していく。

陸上・海面養殖をベースとした ICT 活用

作業日誌 給餌量 / へい死数

育成状態 平均体長 / 重量
無駄エサ量

水質測定
データ 水温 / DO

公開
データ 気温 / 降水量
市況情報

タブレットで入力
※iPad を予定

映像・ソナー
画像を解析

自動測定装置を
使用

気象庁 HP 等から
自動収集

養殖管理クラウド

様々なデータを一元的に収集
主な分析指標
・生存率（斃死率）・成長倍率・増肉量推移
・脂質含量・資料転換効率（増肉係数）

収集した
データを活用
タブレット
パソコン

ICT 技術

(1) 海洋観測



その他には (2) 海況シミュレーション (3) 超音波による生育モニタリング
(4) カメラによる生育モニタリング (5) 養殖管理クラウド

ごあいさつ



誰からも、環境からも、何も奪わない養殖、
発想の転換とテクノロジーで
もっと自由に、もっと簡単に、もっと安全に、
僕達FISHBIOTECが水産養殖をHAPPYにします。



株式会社 鯖や
株式会社 SABAR
フィッシュ・バイオテック 株式会社
代表取締役社長
右田 孝宣（サバ博士）



企業情報

会社名	フィッシュ・バイオテック株式会社
設立	2017年7月7日
資本金	3億6,450万円（準備金含む）
代表取締役	右田 孝宣
メンバー	専務取締役 CMO：田中 俊子 生産者：井本 洋紀 10名（パート・アルバイト含む）
事業内容	1. 人工種苗 2. 飼料開発 3. 陸上養殖水槽設備 4. 養殖管理システム
住所 種苗生産場・養殖生簀 種苗設備	〒561-0831 豊中市庄内東町 1-7-33 〒649-3633 和歌山県東牟婁郡串本町大島 1789 ①親魚棟 30トン3基、温度日照管理通年採卵 ②ワムシ棟（2トン4基、アルテミア水槽3基） ③稚魚棟（50トン2基、5トン4基）
TEL	06-6868-9568
FAX	06-6868-9569
URL	https://fiotec.jp/



Change the world with land-based mackerel farming
Japan's next-generation fishery

Fish Biotech Co., Ltd.

Business contents

Aquaculture Fish egg,fry,cultivation system research and development company.

- 1) Fish egg hatching technology
- 2) Fish fry production technology
- 3) Development of bait according to fish species
- 4) Development and proposal of optimal cultivation system for fish
- 5) Fish branding

We are a fisheries research and development company.

In collaboration with Japanese companies, universities, and various research institutes

Consolidate fishery know-how.

A company that proposes optimal aquaculture.

Mission

The fishery technology of Japan (the maritime nation), streamline the supply of fish.

Contribute to the development of the fishing and aquaculture industries that do not deprive marine resources.

Research and develop aquaculture and create the future of the fishery in a sustainable way.

Vision

To create a future where safe and delicious fish can be eaten forever ...

Research and develop sustainable aquaculture and provide aquaculture platforms for aquaculture producers and aquaculture companies.

The aquaculture system we provide is easy to operate, and anyone (for example, people with disabilities, senior citizens) can do business.

Company name Fish Biotech Co., Ltd.

Established July 7, 2017

Capital 364.5 million yen

Representative Director Takanobu Migita

Address 1-7-33 Shonai Higashimachi, Toyonaka City, OSAKA, JAPAN 5610831

Fry plant 1789 Oshima, Kushimoto, Higashimuro, Wakayama JAPAN 6493633

TEL 81+6-6868-9568

FAX 81+06-6868-9569

URL <https://fiotec.jp/>